
心から 信頼出来るひと。

霞犀 奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心から 信賴出来るひと。

【Nコード】

N 6 1 5 3 C

【作者名】

霞犀 奏

【あらすじ】

オリキャラの響汰と凜の出逢い。響汰の過去。ほんの少しBL表記あり。

マエガキ。

オリキャラの響汰と凜が出てきます。
キョウタ リン

ほんのちよっぴりですがBLを連想させる内容もあります。
オリキャラ・BLが苦手な方はバックプリーズ。

バッチコーイ！って方は どうぞ、お楽しみくださいませ。 ^ ^

『可哀相ね、お母さんを亡くすなんて』

ウルサイ。

『お父さんは小さい頃離婚して出て行ったんでしょ?』

ダメレ。

『私が、引き取ってあげるわ。響汰くん』

ソレイジヨウクチヲヒラクナ・・・・・・・・！

「つやめろ・・・！・・・夢・・・か・・・」

久々にあの日の夢をみた。

心なしか服が濡れている。冷や汗をかいたのか。

「いい加減忘れろ・・・女々しいな、俺も」

母の葬式の日、一番忘れなくて一番忘れられない出来事。

まわりは泣くヒトばかり。そして、

『ワタシガ、ヒキトツテアゲルワ』

俺の親が残した財産目当ての、卑しい大人のキモチワルイ顔。

あの日から俺はヒトを信じなくなった。

信じてても無駄。そう思っていた。

なのに。

「おはよう、えーと・・・いい天気、だね」

俺に近づいて来たそいつ——名前は凜、と言ったか——は、笑顔で俺に話しかけてくる。

「・・・・・・・・何だよ」

明らかに嫌そうな目で見つめる。が、そいつは動じない。

「君と、話してみたくて」

そんな、理不尽な。

「そんなんが理由になるかよ」

「なるよ。立派な理由だ」

何処が立派だ、と言いたくなっただ、口を紡ぐ。

「・・・・・・・・・・で？俺に何を話せと？」

「・・・・・・・・・・話すより、前に、さ」

さっきよりも、少し爽やかさが増した笑顔で。

「友達にならない？」

+++

凛さんのキャラどんなにか忘れたから間違ってるかも！あは！！！
えー

「・・・・・・・・・・は？」

トモダチになりたい、と言ったのかこいつは。
誰とも関わろうとしなかった、俺と？

「トモダチって、どんなトモダチだ？」

「え？」

「絶対裏切らない存在か？それとも、一緒に遊ぶ存在か？」

「・・・・・・・・・・」

ほら、答えられな——

「君の思っ、トモダチと言っ存在になりたい」

こいつ・・・・・・・・本気、で？

ここまで真っ直ぐに気持ちを伝えられたことはなかった。
みんな俺の財産目当て。家柄目当て。
卑しい存在ばかり。

なのに、

こいつは 何故か信じられる。

「俺の言うトモダチはそこに居る甘っちょろいモンじゃねーぞ?」

「うん、知ってる。君はそんな感じがする」

ははっ、と笑い、言葉を続ける。

「・・・笑うなんて久しぶりだ。忘れてなかったんだな・・・..
お前なら信じられる気がする。・・・..少しのことで苛つく
ようなやつだぞ?俺ア。

それでもいいなら・・・宜しく、・・・..凜」

「・・・..名前・・・..知っててくれたんだ」

凜は嬉しそうに微笑むと、言葉を続ける。

「もちろん、それなりの覚悟はあったからね。
大丈夫、君の言うトモダチになってみせるよ。・・・..響汰」

「・・・..名前、呼ばれんの久々。・・・..適当に呼んで

いい、お前なら」

「じゃあ、響……とか？」

「……………ん」

軽く頷くと、凜はまた嬉しそうに微笑む。

「きょーうつ」

「ちよっ……………テメ、抱きつくなっ!!」

抱きつかれてドキッとしたのは、トモダチになれたから——だよな？

E
N
D

アトガキ。

ちゃんとした小説書いたのめっちゃ久々です霞犀です（え

凜響風味。うん、あのぶっちゃけ半分グレてた響と抱きつく凜さんが書きたかっただけでs殴

凜↑響みたいになってますが凜↓↓↓↑響くらいですから（え

凜さんはきつと「僕のモノになった。」って心の中で思ってる！黒い！！（（

オリキャラで書くのハマりました。いや、もちろん版權も楽しいよ銀土とか銀土とか銀土とk

でもオリは好きにキャラ作れるし．．．うん（何

でもキャライメは凜さんは古泉くん（ハルヒ）で響はキヨン（ハルヒ）+土方さん（銀魂）÷2みたいな！（え

ちなみに今の凜響（一発変換出来ちゃったよ）は抱きつくのなんて日常茶飯事。

でも恋人ではなんです。トモダチ以上レンアイ未満ってやつ。

でも確実にお互い好きなんです。でも告白してキモチワルイって思われたら、トモダチでもなくなってしまうら——って2人共思ってた、今の関係を壊すくらいならって、告白しないんですねややこしい（´A`）（それ書いてるのお前

多分いつか告白します、よ！凜さんから。

友達になったばかりで、でも好きで、ちょっと照れくさい感じになつてればいいな．．．と思います（作文

あと、「夢か．．．」のあたりは響の家（一人暮らし）、凜さんが登場したあたりは学校みたいなところです。

響も凜さんも中学2・3年くらい。でも授業とかないと思う（え

無駄に設定とか説明とか多くてすみません；；

これからオリキャラ小説や版權小説を書いていくつもりなので、
宜しければお付き合ってください（――）ぺこっ

無駄に長いアトガキチックな物失礼しました！そしてここまで読んでくれてありがとうございます！

9 / 4 霞犀 奏 拝。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6153c/>

心から 信頼出来るひと。

2010年12月14日18時30分発行